



NIHS特別講演会（殿町＃51）

演 題

ワクチン開発研究の新展開： 免疫オフターゲット効果の功罪

講 師

石井 健 先生

東京大学・医科学研究所・感染免疫部門・ワクチン科学分野
東京大学・医科学研究所・国際ワクチンデザインセンター
東京大学・国際高等研究機構・次世代感染症センター



こ 略 歴

1993年 横浜市立大学医学部卒業
1993-96 年横浜市立大学附属病院研
修医、横浜市立市民病院麻酔科医員
1996年 アメリカ政府保健省食品医薬
品局（通称FDA）研究員、審査官
2003年 JST/ERATO 審良自然免疫プ
ロジェクト グループリーダー
2006年 大阪大学微生物病研究所
分子原虫学 准教授
2010年 医薬基盤研究所 アジュバン
ト開発プロジェクト リーダー
2015年 日本医療研究開発機構
（AMED）戦略推進部長（出向）
2017年 医薬基盤健康栄養研究所
ワクチンアジュバント研究センター長
2019年 東京大学 医科学研究所
ワクチン科学分野 教授
2022年 東京大学 医科学研究所
国際ワクチンデザインセンター長
2023年 東京大学 新世代感染症
センター 副機構長

要 旨

2020年初頭以来猖獗を極めた新型コロナウイルスによるパンデミックは、mRNAワクチンという新しいタイプのワクチンの実用化と普及を軸に、臨床試験からワクチン接種行政に至るまでワクチンというキーワードで多くの破壊的イノベーションを世界規模で引き起こした。一方、現状はすっかり「のど元過ぎれば」の時期を乗り越え、ワクチンにはえらい目にあった、史上最大の薬害だ、という意見まで飛び交っている。一方でワクチンによっては認知症や心血管疾患の頻度を下げたり、がん治療の有効性を向上させるといった感染症ワクチンの目的と違う「オフターゲット」の有効性の報告も相次いでいる。これらの免疫学的メカニズムはまだ不明な部分も多く、抗原が必要なのか、アジュバントによるものなのか、Trained ImmunityやIntegrated Organ Immunityといったキーワードをもとに議論できれば幸いです。
<https://vaccine-science.ims.u-tokyo.ac.jp>

日 時

2026年10月9日（金）

15：30～17：00 ハイブリット開催

会議室：国立医薬品食品衛生研究所 2階 共用会議室
オンライン：WebEx

【参加申し込み】

<https://nihs-aspksh.webex.com/webex/register/rbb4d4e8d805596d8ed37704755ea38f0>
からご登録をお願い致します。登録後に接続情報がメール送信されます。（締め切り 10月9日）

【お問い合わせ先】 国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部 石井明子
電話：044-270-6512 メール watabe@nihs.go.jp